

# アジア

## の海を渡る人々：18・19世紀の渡海者

2020年2月1日(土) 13:30-17:30 2日2(日) 9:00-17:30

立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館カンファレンス・ルーム

予約不要  
参加無料



2/1 PM

渡邊 佳成 (岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授)  
重松 伸司 (追手門学院大学名誉教授)  
中里 成章 (東京大学名誉教授)

2/2 AM

上田 信 (本学文学部教授)  
鈴木 英明 (国立民族学博物館グローバル現象研究部助教)

2/2 PM

弘末 雅士 (本学名誉教授)  
山口 元樹 (東洋文庫研究員)

総合討論

昨年度に開催し盛会となった「アジアの海を渡る人々：16・17世紀の渡海者」に引き続き、時代を繰り下げて、渡海者の実像に迫る。近代化の波がアジアに及ぶ18-19世紀には、東シナ海・南シナ海およびインド洋では、商人・植民地官僚・文学者・留学生・奴隷など多様な人々が海を渡った。出身をみてもアルメニア人・オランダ人・スコットランド人などのヨーロッパ、インドネシアなどのアジア諸地域、さらにアフリカ東海岸などに広がる。本シンポジウムでは、こうした渡海者の多様性を、総合的に掘り起こす。また総合討論において16世紀から19世紀にわたる近世から近代への移行期に、海域世界がどのように変容したか、検討する。